

白糠の山間を 春色に染める 桜並木



道東自動車道庶路インターチェンジ（IC）から庶路ダム方向へ約10kmの道路沿いに、桜並木が約3kmにわたって断続的に続いています。桜は上庶路に住んでいる寺澤篤司さん（70歳）が1995年（平成7年）から苗木を育て始め、2002年（平成14年）から毎年桜が好きな仲間とともに植樹してきました。

一本の桜から

寺澤篤司さん／自分が20歳のときだから50年前の話ですが、おやじが建てた家の横にエゾヤマザクラの細い苗を一本植えました。家の周りが殺風景だったので、桜の木でもあればと思ったんです。その桜が大きく育って、そこから種が落ちて自生した芽を畑で育ててきました。5年経つと2mの苗木に育つことが分かりましたので、じやあこれを道路沿いに植えていこうと思ったんです。

庶路ダムがきっかけ

庶路ダムが建設されるという話を聞いて、ここは山奥で寂しい場